

地盤品質判定士，地盤品質判定士補，ならびに地盤品質判定士協議会関係者の皆様へ

住宅地盤被害を特集した日経ホームビルダー3月号のご紹介

現在発売中の日経ホームビルダー3月号は，地震による宅地被害に関する事例，知見，対応技術が『地震が暴く危うい擁壁』として特集されています。

日経ホームビルダーの定期購読者でなくても本号だけの単独購入ができますようです。

添付したのは特集の表紙です。

1冊の価格は2100円だそうです。ご購入希望者は以下のURLからお申し込み下さい。

<http://kenplatz.nikkeibp.co.jp/atcl/bldhbd/15/1703/>

特集号の表紙は，次頁をご確認下さい。

ホームビルダー3月号表紙

《追伸》

地盤品質判定士通信は，関係者の情報交換の場です。地盤品質判定士の方々からの寄稿を歓迎致します。

今後も適宜関連情報を配信していきますので，宜しくお願いします。

なお，地盤品質判定士協議会では，地盤品質判定士，地盤品質判定士補の皆様役に役立つ情報を提供し，また，地盤品質判定士，地盤品質判定士補の方々が活躍しやすい施策を展開していくためにも，地盤品質判定士，地盤品質判定士補の皆様にご登録情報の確認と更新をお願いしています。まだご自身の登録情報の確認が終わっていない方，登録後に登録情報に変更があった方は，下記URLにアクセスして個人ページで登録情報の確認と更新を行ってください。

URL：http://dp57285842.lolipop.jp/jage/jagemember/jage_login.php

2017年2月22日(火)
地盤品質判定士協議会事務局

特集

地震が暴く 危うい擁壁

“無責任の連鎖”が被害拡大

切り土や盛り土を伴う古い擁壁は、ひとたび地震の襲撃を受けるとたちまち弱さを露呈する。熊本地震の被害分析が進むなか、擁壁の崩壊によって家屋に大きな被害が及んだ実態が明らかになった。崩壊した擁壁は関連法規に適合しないものがほとんど。誰も責任を負わない無責任の連鎖が被害を広げた。地盤の安全に無関心であることは許されない。地盤の専門家と連携した対策が不可欠だ。(荒川 尚美)

昨年4月に発生した熊本地震で、熊本県益城町の幹線道路沿いで高さ約5mの擁壁が崩壊した。写真の白い住宅は、竣工してわずか10日後に被災した。(写真:住民が提供)

宅地被害の新事実が続々

擁壁 不適格な擁壁で家が傾く — P.24

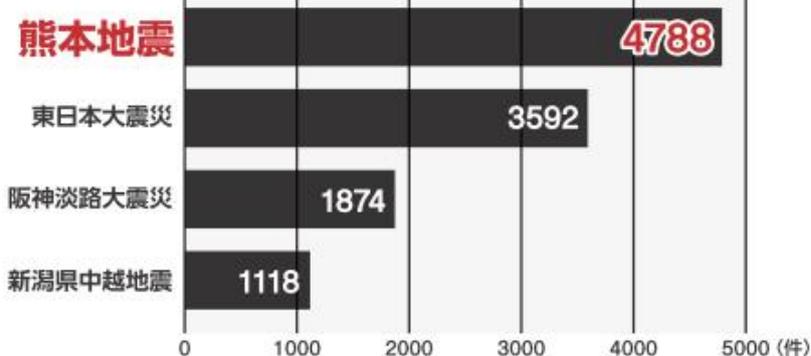
基礎 杭や有筋基礎に一定の効果 — P.28

地盤増幅 揺れが2倍以上に増幅した地域も — P.31

液状化 震災後の補修費用考えた地盤補強を — P.34

地盤専門家と連携した対策を — P.36

「危険」+「要注意」の合計件数



上の件数は宅地危険度判定における「要注意」と「危険」を合計したもの。阪神淡路大震災の数値は、判定制度が未整備だったため、住宅・都市整備公団（当時）の調査による宅地被害箇所数を掲載（資料：国土交通省の資料を基に本誌が作成）